

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200585		
法人名	有限会社 美深シルバー支援		
事業所名	グループホーム びふか		
所在地	中川郡美深町字南町25番地		
自己評価作成日	令和元年9月26日	評価結果市町村受理日	令和元年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173200585-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173200585-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食材は畑で収穫できる野菜を使用しているほか、季節に合わせた魚なども取り入れ、食卓でも季節を感じられようとしている。  
 住み慣れた地域で利用者様本位の自由な暮らしができるよう適宜外出を行っている。  
 入所後も毎月のお便りや家族会の開催により入居者様の変化をご家族に感じてもらうように配慮している。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年10月26日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町から車で数分の田園地帯の一角にあり、周囲は手入れが行き届いた畑が広がった、静かな環境下に立地している。建物は平屋建ての2ユニットで、それぞれの建物が連絡通路で結合され自由な往来が確保されている。開設は2010年で9年が経過し、合計18人の高齢者が生活をしている。同事業所は認知症のデイサービスも併用し、また同一敷地内に同法人が経営する居宅と訪問介護事業所があり、近隣にはサ高住も同法人が事業展開をしている。当事業所には薪ストーブが置かれ、柔らかな薪の温もりが居間全体を包み込んでおり、懐かしいランプなどの古民具がいたるところに飾り付けられ、利用者の生きてきた時代を大切にすることを象徴的に表している。ケアについても、炊事や掃除、入浴を介護員の仕事から切り離して介護職の負担を減少させ、医療が不可欠となった看取り介護については特別養護老人ホームや療養型の病院にお願いするなど介護領域の分担を明確化し、当事業所は生活分野の特化を目指し、一人ひとりの日々の暮らしをより充実させる方向で取り組みを進めている。小さな町の小さな事業所であるが、その役割は大きく、今後も大いに期待したい。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	壁に掲げてある理念を目にすることで、職員一人一人が意識し、日々のケアを実践、質の向上を目指している。	簡易な言葉で記した3項目からなる理念を、事業所パンフに明記し、また事業所内に掲示する事で利用者と家族、職員や関係者に示し、共有しながら介護の実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症の方々がどのように生活しているのかを事業所の行事に参加していただき、コミュニケーションをとることで理解を広めていきたい。	町内との交流はごく普通に続けられており、家族会との親睦会や昼食会にも近所の参加があり、また認知症のデイサービスも実施しているため、関係者とのふれあいも多く、認知症を含めた高齢者の理解が進んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネージャーとの連携によりデイサービス・ショートステイ・お泊りデイ・入居といった流動的な支援の提供。利用者・家族への支援を流動的に行い、地域の方への信頼性を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告にて提供しているサービス内容を明らかにし、出席者からの評価、要望、助言などの意見を聴取し、サービスの質の向上につなげている。	運営推進会議には、行政や包括、民生委員、特養ホーム職員等の多彩な顔ぶれで2ヶ月ごとに定期に開催している。行事内容や待機数、デイの参加状況から福祉的な課題まで話し合い、今後のサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との連携による情報共有を、利用者に対する生活支援をより充実させ、地域・近隣で安心して暮らすことができる支援体制づくりに役立っている。	行政窓口とは、各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を分担し担っており、信頼感に富んだ友好的な関係が続いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を明確にし、見守りや危険予測を行い、利用者の安全を第一に考え身体拘束をしない工夫・ケア、職員優先の介護が行われないよう努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的開催しながら抑制や拘束が必要ないような工夫やアイデアを検討し、直近の会議で職員に周知している。あらゆる場面でも利用者の安全を最優先し、見守りの徹底により、拘束や抑制とは無縁な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を明確にし職員の教育、知識、ストレスを把握。身体的心理的また、介護放棄など虐待が起こる要因を十分に理解し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解できるよう勉強会やケアカンファレンスで議題として取り扱い、知識を深められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に取り、丁寧な説明と理解に努める。不安点や疑問点がないかも丁寧に確認を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、利用者・家族と職員や管理者が交流する場を設けている。また施設に意見箱を設置している。	年に1度は家族会を開催し、管理者や職員と利用者や家族が食事を共にしながら、忌憚のない意見交換を行っている。また毎月、個人別に身体状況や食事、レクの参加、医療について手紙にしたため家族宅に送り、好評を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを実施し、意思疎通・意見交換ができる場を設けている。忌憚のない意見交換ができるよう努めている。	ユニットごとに会議を開き、意見交換や提案を受けており、男性職員も多いからか、ざっくばらんな話もあり、また毎日の申し送りでも、職員間の意思疎通は良好で、出された意見は論議され、現場に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスのない職場環境。研究心と向上心を抱き、マンネリ化の防止。不測事態の体制づくりなど行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップのための研修・講義の受講の推進。受講の際には報告書を作成し、職員間で閲覧し情報を共有。また有資格者への資格手当の支給や、資格取得希望者への研修の情報提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設研修・交流会・勉強会を実施し、サービスの向上に努める。また実習生・研修生の受け入れを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活を始めることで、施設の様子、居室での不安など、小さな事でも話を聞き要望にそえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて、今までの家族との生活で困難であったこと、および離れて暮らすことの心配・要望を聴取。また時間経過で不安になることがあれば随時聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活ペース・様子・家族とのかかわりを確認し、在宅での生活に近づく支援及び今後の生活に必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「見ている」と言う思いではなく利用者「見られている」ということを気持ちの中に置き、お互いに気持ちに余裕が持た生活ができるよう声がけに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後面会時や月1度の生活状況や心身の状態を手紙で報告し、連携が保てるよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時には行えなくとも、落ち着き穏やかな中会話ができるよう配慮を行う。ご家族の意向があれば、外出外泊を速やかに行えるようにしている。	受診時の送迎で馴染んだ景色や街並みを楽しんでもらっている。また家族の来訪時には、食事を共にしながら、落ち着いたひと時が過ごせるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながらもレクレーション等で関わり合い、日々笑顔が見られるよう声がけ、配慮に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて情報提供・相談等の支援をするように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族とのコミュニケーションをつつじて、または本人の普段の言動等から本人の希望意向を把握するよう強めている。	本人の意向については、日々支援して行く事で好き嫌いや思い、希望を把握して本人本位の生活ができるように努めている。	本人の思いを把握、共有して介護に臨んでいる姿勢に敬意を表したい。今後は、本人は最後の時間をどこで過ごしたいのか等のエンディングに関して、具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、これまでの生活歴や習慣等を把握、共有し、サービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を活用し、一人一人の現状や変化を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いのほか、定期的にスタッフ間のミーティングを行い現状に即した支援をするよう努めている。	担当者が日頃の生活や介護日誌からモニタリングを重ね、介護支援経過を基にスタッフで検討し、家族意見や医療面を加味しケアプランを作成している。病変等が生じた場合は、変更等を検討して現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を記録し、スタッフ間で共有してケアの実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿った支援をができるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町に協力をお願いし、安心して生活できるよう工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談の上希望した医療を受けられるよう支援している。	小さな町であり、医療機関は限られている。また町外の病院受診に際しても職員が同行し、日常生活の機微に対し、説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴・体温・血圧測定・会話など、日常のかかわりの中で健康状況や気づきを職員間で共有し、早期受診を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、医療機関と家族からの情報を緊密に取り合うよう努めている。また職員も利用者との面談を定期的に行い本人の安心に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の有り方については早い段階で家族と話し合いを十分に行っている。急変の場合はすぐに対応できるよう、職員・医療機関と連携を図る	重度化した場合について、契約時に説明し同意を得て入居となっている。方針として、看取り介護は行なっておらず、医療行為が必要不可欠となった場合、介護の住み分けとして、特養や病院に終末期をお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に対応する連絡網やマニュアルを整備し、周知を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力による避難訓練の実施。経路確認や消化器具の使い方などの訓練を行っている。	避難訓練は消防署の指導下で、夜間想定を含め年に2回実施している。備蓄品にも不安はなく、冬季の厳冬期では、常用している薪ストーブも効果的であると考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の考えを一番に、さりげないケアを行い、ミーティングなどで利用者のプライバシーを損ねないよう対応を図っている。	基本は接遇の問題であるが、実地で学ぶことが多くあるため、具体例を挙げながら日々注意し、職員もお互いにチェックしあいながら、尊厳とぬくもりのある対応に臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けをし、なるべく自分で決められる場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいかを見守り、誘導など希望にそって支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院は本人の希望に従い出かける。その人らしい身だしなみに配慮し支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員がともに食事をとることでより楽しい食事時間を過ごせるようにしている。	利用者と職員は同じテーブルで同じ食事を摂り、お互いに会話を楽しみながら、食事を支援している。職員に負担を減らすようと、調理は専門家を雇用し、利用者のお手伝いも含め、ゆっくりと楽しめる食卓となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間の相談・情報共有により一人ひとりに適した支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行い自力でのケアが行えるよう促す。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌やミーティングから一人一人の状況に応じた支援を行っている。	排泄はトイレでを基本として、一人ひとりの排泄サインを共有、見逃さないように注意し、時間誘導も織り交ぜながら、無理のない自然の排泄になるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬のみに偏らず食事や水分摂取での便秘解消を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全ての希望に沿うことは難しいが、利用者から「きもちよかったよ」と言っていただけのサービスの提供を心掛けている。	デイスービスも実施しており、お風呂は毎日沸かしていつでも、だれでも入浴できる体制で臨み、毎日が入浴日、を実施している。そのため、一日の入浴者も少数で、ゆっくりと落ち着いた入浴支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	靴下を脱がせ、締め付けの無いようにしたり、室温にあわせ掛物を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について処方箋を確認し、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活状態を観察し、適した支援をしている。利用者から希望があれば、洗濯物をたたむなどの手伝いをしていただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・秋にドライブの予定を立てるが天候・体調の関係で行けていない。近くの花木で季節感のある話題づくりをする。散歩や家族との外出はできる限り対応している。	事業所の周囲は田園地帯であり、交通量も少なく、近所への散策には最適な環境で、天候と体調を勘案しながら、気軽な外出を支援し、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で金銭管理を行っている利用者は無し。希望があれば一緒に買い物へ行ったり、希望するものを購入する対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればその都度電話利用できるよう支援をしている。要望があれば、電話をかけ代弁、手紙の代筆を行うこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール入り口には四季の花を飾ったり、職員同行での散歩時の野花を飾っている。季節に合わせた小物を置いたり廊下の空きスペースには行事の写真や絵を飾り心地よく過ごせるようにしている。	居間は広く明るく、採光も優れており、温度や湿度の管理も適性を実施されている。事務室には薪ストーブに火が入れられ、柔らかな暖かさが居間にも広がっている。全体的に古民家風の造作で、装飾も施設的な華美さはなく、やんわりと季節を感じられる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ側に一人で過ごせるようにイスを置き対応している。佇む様子があればイスをもっていく対応を行う。ホールソファでは利用者同士混雑が生じないよう場所にも配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人なじみのタンスや飾り物など持参していただき、なるべく自分の部屋であると感じられるよう工夫している。居心地よく過ごしていただけるよう見守りを行い、職員が適時整理整頓を行う。	居室には洗面台が備え付けられ、馴染みのタンスも持ち込まれ、壁には家族の写真もあり、ゆっくりと過ごせる工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の部屋の前にそれぞれの名前のプレートを下げ分かりやすくしている。トイレには張り紙をしたり、お風呂の前にはのれんをかけるなどしている。		